

2. 検討経緯

(1) 検討経緯

- 平成 20 年 「福部まちづくり協議会」を中心に「将来の学校のあり方」協議開始。
- 平成 25 年 「福部まちづくり協議会」を中心に地域住民、幼小中学校教員、PTA 等のメンバーで構成する「福部の教育を考える会」が設置され、中学校の存続をめぐり地域全体で協議した。近隣の学校に統合する案も出たが、「地域に中学校が必要」という思いも強く、最終的に中学校を地域に残し、さらに幼稚園も統合し、幼小中一貫校として新しい学校を開校させることを目指すことになった。
- 平成 26 年 6 月に鳥取市長、教育長に、幼・小・中学校までの十年教育の一貫校設置の要望書を「福部の教育を考える会」が提出され、10 月に校区審議会から幼少中一貫校設置の答申が出された。12 月から地域の代表者、幼小中の保護者、教員等からなる「福部地域幼小中一貫校推進委員会」を設置し、新しい学園の具体的なビジョンや施設計画の検討を開始。

(2) 検討体制

「幼小中一貫校推進委員会」(メンバー:地域代表、幼小中保護者、教職員)の中に、次の3部会を設置。

- ・「教育課程部会」
- ・「教育環境部会」
- ・「啓発部会」

施設計画は「教育環境部会」で検討し、推進委員会で承認を得る。

推進委員会の体制、役割は右図に示す。

福部地域幼小中一貫校推進委員会で検討する推進内容		
教育課程部会	教育環境部会	啓発部会
○地域代表2名(考える会)	○地域代表4名(考える会)	○地域代表3名(考える会)
○学校・園代表7名 (教頭・教務主任・研究主任・副園長)	○学校代表5名(校長・教頭・園長)	○学校代表3名(教頭・副園長)
(学校・園職員)	○保護者代表(2名)	○保護者代表(2名)
○保護者代表(2名)		
<推進内容>	<推進内容>	<推進内容>
○幼小中一貫ビジョン	○一貫校の形の検討 (一体型・隣接型)	○地域住民への説明会
○学校教育目標・めざす子ども像	○特別教室棟の検討	・幼小中一貫校について
○カリキュラムの検討	○教室配置の検討	・コミュニティ・スクールについて
・新設教科	○施設・設備・備品の検討	・特色ある教育について
・乗り入れ授業	・職員アンケートの実施	・小規模校転入制度について
・学校行事	○校名、校歌、校章の策定	○すなっこ園関係者との協議
・理数教育	・制定委員会の設置	・5歳児の教育について
○幼稚園教育内容の検討		・保育園との連携について
○先進地視察		・保育ニーズへの対応について
○特例校申請(H27. 8)		
○特例校申請(H27. 8)		

(3) 「教育環境部会」の検討経緯

時期		検討事項	検討結果
第1段階	H27. 1～ H27. 7	■第1回 (H27. 1. 22) ・施設形態について	・施設隣接型と一体型のメリットとデメリットを検討
		■第2回 (H27. 3. 4) ・多目的ホールについて	・全校生が集り、給食を食べられる広さが必要
		■第3回 (H27. 4. 17) ・施設形態、多目的ホールについて	・施設一体型校舎とすることに決定 ・全校生と一緒に給食が食べられる広さが必要

「小中一貫教育に適した学校施設計画・設計プロセス構築支援事業」
鳥取市立福部未来学園幼小中一貫校整備基本計画(概要版)

		■第4回 (H27. 5. 14) ・小学校校舎について	・小学校校舎見学 ・小学校校舎を一貫校校舎として利用するに当たっての課題検討
		■第5回 (H27. 6. 3) ・特別教室棟について ・校名選定	・技術室、家庭科室、美術室として利用、 小中学校の校舎間をブリッジで接続
		■第6回 (H27. 7. 13) ・校名、校歌、校章について	・公募とする
		■第7回 (H27. 8. 7) ・校歌、校章の公募について	・公募方式決定
第2段階 (委託期間)	H27. 8～ H28. 3	■第8回 (H27. 9. 11) ・建築専門家による講演、指導助言	・講演、助言を受けて、ゾーニング、オープンスペースの有効利用、ホール、幼稚園、管理諸室の配置計画の検討
		■第9回 (H27. 10. 29) ・多目的ホール、幼稚園舎について	・中庭に建設する案から、幼稚園は校舎内、ホールは現有を拡張する案に変更
		■第10回 (H27. 11. 6) ・学園章について	・一次選考
		■第11回 (H27. 11. 16) ・学園歌について	・一次選考
		■第12回 (H27. 12. 14) ・検討プランについて ・建築専門家による指導助言	・指導助言を受けて、教科教室、及び多目的ホール(ランチルーム)を全校生が食べられる広さにするか検討
		■第13回 (H28. 1. 18) ・多目的ホールの広さについて	・多目的ホール(ランチルーム)に広さは、全校生の8割程が食べられる広さとする
		■第14回 (H28. 2. 23) ・工事工程について	・H30年度から施設一体型一貫校として利用できるよう小学校校舎の改修・増築を完了させる



「第2回環境部会」実施風景



「第8回環境部会」実施風景

(4) 「教育環境部会」の主な検討内容

■初期案での方針

- ・小学校校舎を一貫校教室棟として利用する。中学校の特別教室棟も利用する。体育館は2棟とも利用する。
- ・中庭に多目的ホール(地域住民も使用)を建築し、渡り廊下(陸橋)で小学校校舎と特別教室棟をつなぐ。
- ・幼稚園は、小・中の姿が見える位置である、現在の部室棟に建築するのが望ましい。園庭は、中庭の半分(約1000㎡)で十分だが遊具は必要。
- ・現在のランチルーム、中学校プールは、校舎改修と同時に解体・撤去したい。



■初期案からの変更点

1. 幼稚園児室の位置

- 初期案**：上級生に迷惑をかけずに園児が思い切り遊べる様、幼稚園を中庭側で別棟にする計画。
- 最終案**：教室棟内の1階、初等ブロック（小学校1，2年）の近くに幼稚園児室を設置。
- 理由**：せっかく一貫校になるのに別棟では園児と児童生徒の日常的なふれあいがなくなる、多少音の問題もあるだろうが、それ以上に一つの建物の中で学校生活を送ることの教育効果が大きい、思いやりの心や人と関わる喜び、社会性などが育つことが期待できる、そして、これこそ小規模一貫校のメリットであるという考え方により、計画を変更した。

2. ランチルーム（多目的ホール）の規模

- 初期案**：旧福部町には昭和55年から小中学生が一同に給食を食べられる食堂兼調理場があったが、耐震性の問題で平成19年から使用できなくなっていた。地域まちづくり協議会からはこの食堂を復活させるか、復活が無理でも子供達が一同に集まれる多目的ホール兼ランチルームは作ってほしいと要望があり、中庭側に別棟で新築する計画。
- 最終案**：部会で検討を重ねた結果、教室棟内の現有多目的ホールの壁を撤去して中庭側に拡張し、全校10学級の内、8割の生徒が入れる大きさの多目的ホールを作ることとし、残りの2割の生徒は2階多目的室で食べることができるようにした。
- 理由**：給食を食べる時間帯が幼稚園児と中学生では違うため、児童生徒が一同に給食を食べる頻度が少ないこと。利用率の少ない部分にコストを掛けるのではなく、ICT設備の充実など一貫教育をする上で必要部分にコストを掛けるべき、という考え方により、計画を変更した。

■計画・設計プロセスの考察

福部地域は平成20年から、将来の学校のあり方を検討しており、本支援事業で取り組み始めた頃には幼小中一貫校の教育ビジョンやコンセプト等はしっかり決まっていた。また、それらは推進委員会メンバーで共有されていた。環境部会ではそれらのコンセプトをいかに建築に反映させるかを中心に検討、協議を進めていった。環境部会のメンバーのほとんどが2年前から協議を重ねているため遠慮なく意見を言い合える関係になっており活発な議論が交わされた。市教育委員会は、委員会で共有されているコンセプト、要望、問題点を聞き取った上で、先進的な学校建築などを紹介しながら、たたき台となるプランを持ち込み、それを元に協議を進めていった。

建築専門家による講演及びアドバイスを委員会メンバーで聞かせてもらい、地域の特性に応じた、その地域ならではの素晴らしい一貫校が全国にたくさんある事が分かった。「学校は教育施設ではない。学校は学校だ」という言葉を聞き、単なる教育施設にとどまらない福部地区を象徴する素晴らしい学校を作りたい！という思いが委員会内に一層高まった。

具体的なアドバイスとしては、教室前のオープンスペースについて、教員コーナーや交流スペースとしての利用を具体的に計画するとともに、教職員間の意思疎通のため、管理諸室の配置や談話スペースの配置を見直した。

3. 基本計画の概要

(1) 整備方針

整備方針は教育課程部会で決められる教育方針、教育カリキュラムなどを確認し、推進委員全員で目指す目標を共有しながら検討を重ね決定していった。

21世紀をたくましく主体的に生きる人間力の育成を目指し、十年間を見通したカリキュラムを家庭、地域、学校の協働により実施する。

この十年一貫のカリキュラムを実施するにあたり新しい学校施設づくりの目標は以下のものとする。

- ・子供たちの主体的な学習を誘発する環境づくり (⇒ 教室前のオープンスペース、教科教室)
- ・生徒同士の対話的・協働的学習を可能とするフレキシブルな場の充実 (⇒ 上記+多目的ホール)
- ・異学年交流、地域交流のできるスペースの充実 (⇒ 多目的ホール、地域室 (和室))
- ・教職員の連携を容易にする執務環境づくり (⇒ 職員室の一体化、ラウンジの設置)
- ・図書、PC コーナーからなるメディアセンターの充実
- ・内装木質化による温かみのある豊かな環境づくり
- ・地域コミュニティーの核となる学校づくり
- ・地域の防災拠点としての学校づくり

(2) 基本計画案

ブロックゾーニング

- ・小学校校舎を一貫校教室棟として利用し1階を初等部、2階を中等部、3階を高等部とする。
- ・高等ブロックに英語教科教室を設ける。

既存校舎の有効利用

- ・中学校特別教室棟は引き続き教特別室として利用し、渡り廊下で接続する。
- ・2棟の体育館は引き続き利用する。

教職員の連携

- ・職員室は幼少中一体の職員室とし校門側に設け、学校全体や来校者の把握を容易にする。
- ・談話スペースなども設け、教職員間の情報共有と連携強化を進める。

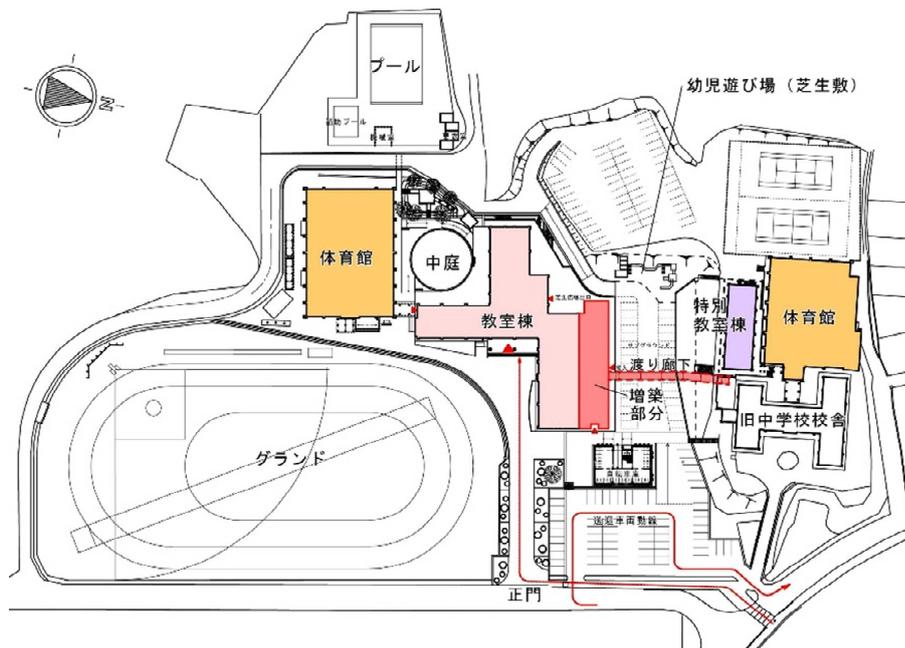
異学年交流と主体的な学びを支える学習環境

- ・多目的ホールは現有施設を利用し2倍に拡張。別棟とせず、利便性を優先する。
- ・2階に図書室とPC室からなるメディアセンターを設ける。
- ・幼稚園児室を小学校校舎内に設ける。

多様な教育形態を生み出す教室周り

- ・オープンスペースは建具で仕切る。
- ・各階のオープンスペースに教員コーナーを設け、児童生徒がいつでも先生に質問できるようにする。先生の授業準備室にもなる。
- ・学校中庭をウッドデッキ等で改修し、上履きのまま出られる広場にする。

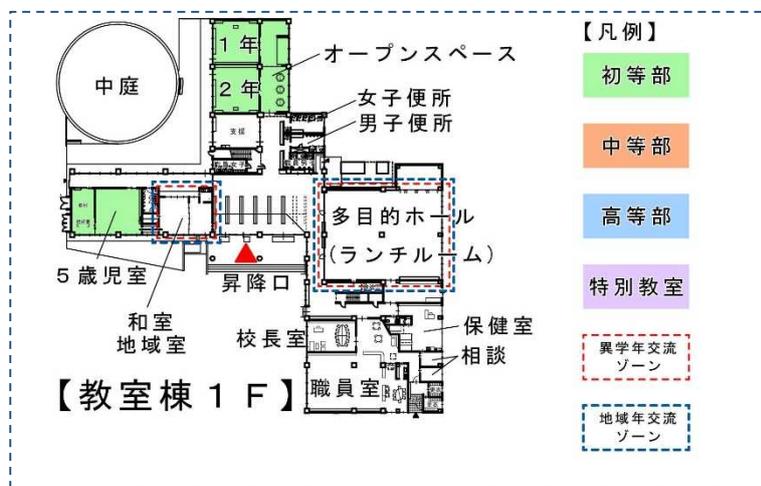
配置図



- ・隣接する小中学校の内、既存小学校校舎を増築改修し幼小中一貫校教室棟として利用することで一体感が増す。
- ・中学校の特別教室棟を改修し引き続き既存施設を有効利用する。
- ・2つの既存体育館は比較的新しいため、引き続き利用する。旧小学校体育館は、幼稚園児の遊戯室、小学生の体育館及び式典等に利用し、旧中学校体育館は中学生の体育に利用することで、異学年交流を進めつつ、無理のない時間割ができるようにする。

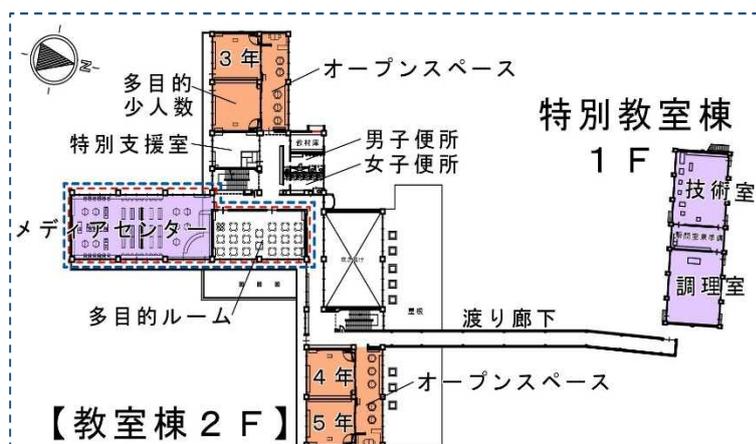
- ・旧中学校の敷地は旧小学校より3m程高い、そのため小学校校舎の2階レベルで渡り廊下を設けることで、動線の効率化を図る。
- ・児童生徒は東側正門からアプローチし教室棟の同じ昇降口から学校に入る、幼稚園児の送迎を考慮し、車は一方通行とし、極力歩道と車道が交差しないようにすることで、徒歩・自転車通学者の安全確保を図る。
- ・中庭に園児が遊べる芝生公園を整備することで、未就学児も交流できるようにする。

平面図



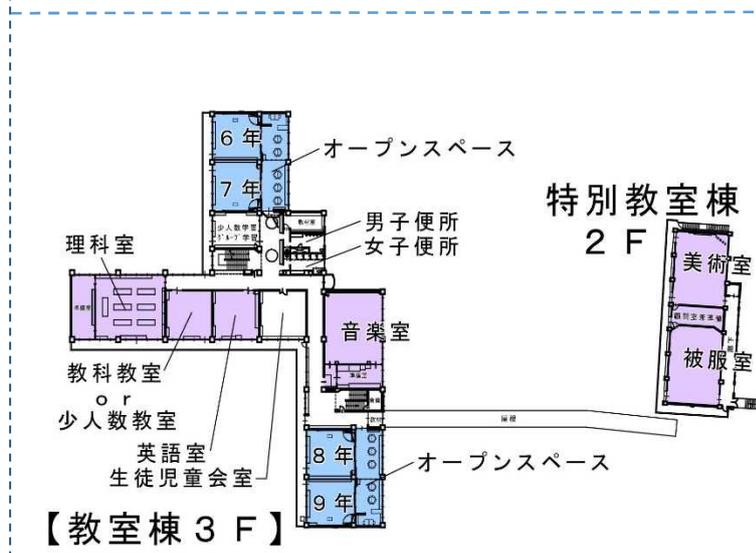
【教室棟1階】

- ・1階は初等部、職員室、多目的ホール等からなる。
- ・昇降口横に異学年交流や地域交流のためのスペースとして多目的ホール兼ランチルームを設ける。
- ・昇降口正面の壁を福部町ギャラリーとして整備し地域の事を紹介する。
- ・昇降口横に地域室（和室）を設ける。
- ・幼小中職員室、事務室は一体化しエントランス、校庭の見える位置に配置する。



【教室棟 2階】

- 2階は中等部ゾーンとメディアセンター(図書・PC)、多目的ルームからなる。
- 中間階にメディアセンターを設けることで、どの教室からも短い動線で行くことができる。多目的ルームは図書閲覧室やランチルームとしての役割も持つ。
- 2階レベルの渡り廊下を設け特別教室棟と繋げる。



【教室棟 3階】

- 3階は高等部ゾーンと理科室、英語室、音楽室等教科教室からなる。

【その他】

- オープンスペースには教員コーナーを設ける。
- 中高等部の黒板のサイドに収納可能な教科ホワイトボードを設けることで生徒が教科ごとに授業の手伝いができるようにする。
- 全館 Wi-Fi 環境を整備する。
- 内装の木質化を図る。
- 教科教室やオープンスペースなど成長段階に応じた変化のある空間の演出をする。

■計画建物概要

計画施設面積：既存小学校校舎 3, 818 m² (RC3F) を改修、一部増築 (増築面積 413 m²)
 特別教室棟 552 m² (RC2F) 改修
 既存体育館 2 棟 1, 444 m²(小学校) 1.063 m²(中学校)
 普通学級：幼稚園から中学校まで 1 学年 1 学級、特別支援学級 2 学級

■改修・増築スケジュール

平成 28 年度 実施計画
 平成 29 年度 小学校校舎増築・改修工事
 平成 30 年度 施設一体型校として福部未来学園開校
 平成 30 年度 特別教室棟改修工事・外構工事

【参考】既存福部小学校 フロア平面図

